

空の旅を楽しくするフリーマガジン〔ソラーナ〕

SORANA

ANAサービス情報誌

No. **29** 2007.4

FREE
無料

SORANAインタビュー
阿部 寛



新しい日本へ行こう

NIPPON2

スペシャル企画が続々登場!

ANA中国線就航20周年

マイル精算をお忘れなく

ANAホテルズ

ますます便利度UP

スキップサービス

もっとマイルを知りたい!

Mile Topics

今月のプレゼント

1,000マイル など

特集

次世代の職人。

ANA

ご自由にお持ち帰りください。

京

都市上京区宝鏡寺。通称人形寺として知られるその界隈には、茶道界の聖地として重要な表千家不審庵、裏千家今日庵があり、数百年來変わらぬであろう雲曲気は実に京都らしく、散策が楽しい。宝鏡寺門前に和傘の製作・販売を手がける日吉屋がある。

店の2階に工房がある。日吉屋の5代目・西堀耕太郎さんは和歌山県出身。奥さまの家の縁業を継いだ。「両方の親に、先のない業界だって反対されましたよ。和傘作りは全国に十数軒、京都ではうちだけ。でも、ここに来て初めて番傘を見た時、そ



古都里-KOTORIライト。和傘本来の基本構造が生かされた。シンプルかつ斬新なデザイン。白、赤、紫、黒色がある。60,900円(シェードのみ36,750円)。

のシンプルな美しさに驚いた。これがなくなるのはもったいないって。番傘の「一番」は番茶の「一番」と同じで、普段使いの、という意味だ。日常の傘として、昭和30年代頃まで多くの家庭で使われていた。また、よそ行きの傘として使われた蛇の目傘は、嫁入り道具として定番だった。そっだ。やがて、時代は丈夫で便利な西洋傘に移っていく。「和傘は張り替えもできるし、長年使えるんです。使い捨ての傘ではなく、直して使うほうがなんでもいって頂やうですけれどね」。西堀さんは少し残念そうに言う。

「雨の日に番傘を持って幼稚園に子どもを迎えに行く、よその子どもたちが「うわあ凄い」って集まっていますよ。僕の普段着はジーンズです。どんな服にも合わせて、自由に使ってほしいですね。京都だから風景に溶け込むというのもあるだろう。だけど、数十年前までは和傘を持つのは当たり前だった。

日吉屋では番傘、蛇の目傘、日傘などの製作のほかに、野点傘を製作する。エリザベス女王やダイアナ妃が来日の際、歓迎の茶会で使われたのが日吉屋の野点傘だった。日吉屋では、日常の傘と特別な場所ですつ傘を作る。この仕事の幅が技術の習得や西堀さんの考えの幅を広げていくのだろう。この伝統を受け継いでいくのかという質問には、意外な答

えが返ってきた。「僕は少し戻したいんです。図面を見ていくと、傘の仕組みには合理化されているところがいくつかある。昭和初期に随分、簡略化されたんです。僕は、風情のある江戸後期あたりのスタイルに戻したいと思っています。」



東京の染め物、京都の和傘。2人の世界はまったく違う。京都と東京という地域性もさることながら、仕事の内容も、おそらくは考え方や物の見方も、何もかもが違う。それなのに、仕事場やそこにいる人々の佇まいに何か共通のものを感じた。伝統を大切に世界でありながら、新しいものを取り入れる。若下さんは男性だけの世界へ入り、女性ならではの視点で着物に開いていく。西堀さんは伝統的な和傘文化を継承しながら、新しい商品を開発していく。受け継がれていく技術とは、時代の移り変わりに敏感に反応し変化してきたからこそ、今日まで残っているのではないだろうか。2つの町でそんなことを感じた。



椀に使うタビオカを野球バットで混ぜる。幾何学的に美しい和傘の構造。この後、和紙を貼る。



男性に根強い人気があるという素材で重厚感のある番傘。作業を終え、完成した傘は、宝鏡寺の境内で天日干しされている。

日吉屋
京都府京都市上京区寺之内通堀川東入ル百々町546
☎075-441-6644
<http://www.wagasa.com/>

懐かしくも、新しき和傘。

「傘には骨の敷だけ工程がある」といわれる。「和紙を貼るコツは？」と尋ねると「思い切りのよさ」との答え。集中力を高め、一気に貼る。「職人の性格が出るころですわ」と西堀さん。